



このまち
のこの地

松本美乃里さん

エコツーリズム推進事業の地域コーディネーターとして本町で活動

川根本町は本当に素敵なまち
みんなでもっと元気にしていこう

この町の魅力を 内外に発信していきたい

皆さん、初めまして。
このたび、エコツーリズム推進事業の地域コーディネーターとして、本町で仕事をすることになりました松本美乃里です。
私は、食育すること、自然の中を歩くこと、人と話をするのが大好きです。
川根本町は本当に素敵なまち以前、個人的に観光客として本町に何度か訪れたことがありますが、豊かな自然に癒され、おいしい食材に心を奪われ、笑顔あふれる地域の皆さんに元気づけられたことが、とても印象に残っています。

私はこれから一年かけて、この町の自然や人、産業などのさまざまな魅力を県内外の皆さんに幅広く広報するため、特に「情報発信」に力を入れていきたいと思っています。本町にエコツーリズムを通じて、多くの人を呼び込む機会を増やすことで、この町をもっと元気にしていきたいことが私の目標です。
また、この町の持つ魅力を、住んでいる皆さんにも再確認していただく機会を設けることで、

新たな視点から川根地域が持つ魅力を実感してもらい、一緒にやって地域を盛り上げていきたいと思っています。
人との出会いやつながりを大事にしていきたい
私はこれまでの五年間、埼玉県で地域情報誌の広告企画の営業をしていました。営業という仕事は、単に商品を売る仕事ではありません。自分を信頼・信用してもらうために、何度もお客様に会い、話し、夢と悩みを聞くことが大事な仕事でした。
本町でも、人と人との出会いやつながりを大事にして、できるだけ多くの人と出会い、話し合い、そして皆さんの力も借りながら、川根本町のために精いっぱい動きます。
「本気で動けば変わる。変えられる」という言葉を信じて。
皆さん、これから一年間、よろしくお願ひします。

松本美乃里：エコツーリズム推進事業の地域コーディネーター。鳥取環境大学を卒業後、埼玉県で地域情報誌の広告企画の営業をする。本年度、エコツーリズム推進事業の一員として、まちづくり観光協会を拠点に活動する。富士市出身。



毎月人口が減り続ける本町で、どんな活性化が図れるか、考えられるか。

町民と議員が意見交換 「町議と語る会」に50人集う

町民有志のまちづくりの会「かわね四季の会」が初めて開いた町議と語る会。会場の茶茗館多目的ホールには、まちづくりに興味のある50人が集いました。立場を超えて同じ目線で、どんな意見が交わされたのでしょうか。



活発な意見が飛び交った語る会。茶茗館多目的ホール。

かわね四季の会が主催する「町議と語る会」は2月22日、フォーレなかかわね茶茗館で開かれました。町内外からまちづくりに興味のある約50人が集い、「人口減少に歯止めをかけ、人口増加を図りたい」をテーマに、町民と町議会議員が意見を交わしました。
座談会方式で進められた会は「発言は一人2分間」というルールで進められ、さまざまなアイデアや意見が飛び出しました。

本町の人口減少問題に関し「出生率の低さを何とかできないか」「結婚する相手がいないという問題がある」「商工会青年部では、ときめき列車を企画して実績を上げている」「住むところを安くして、定住したくなる方策が必要」などの意見が飛び交いました。

農業に関しては「お茶が売れることでこの町は活気が生まれる。天空の茶の販売促進を図りたい。

い。空き家と放棄茶園をセットにすれば定住対策になるのでは」「耕作放棄地（茶園）の有効活用を図る。野菜など多様な作物を栽培するグループの育成が図れないか」などの意見が飛び出しました。

このほかにも「人口増加」を目的とした、空き家対策、企業誘致、遊休地活用、子育て支援、

交流、小学校の跡地利用、大井川鉄道の利用促進など、多岐にわたる発言が飛び出しました。

かわね四季の会では、本町の活性化のために必要なこととして、次の11項目をまとめました。

- 1 他地域ではやっていないこと、できないことをやる
- 2 画期的なことをやる
- 3 町をあげた婚活の実施
- 4 空き家対策の仕組みづくり
- 5 柔軟性をもった取り組み
- 6 統廃合した場合の小・中学校の有効利用（今から考えておくことが必要）
- 7 自分の住んでいるところに誇りを持つ
- 8 考える前にまず行動してみる
- 9 魅力あるリーダーを地域で育てていく
- 10 小さなことから始め、それを続けていく
- 11 若者と高齢者が共存できる地域の創造

会の終了後、ある参加者は「非常に勉強になった。ぜひ、またやりたい。一人が別の一人を連れてくれば、もっともつと輪が広がると思う」と話していました。

対等な目線で「思い」を共有できた

interview

地名に若者定住促進住宅ができたあと、地区の人が「地域が活気づいてきた」と話してくれたんです。若者や子どもが増えたことで自然と「にぎわい」が生まれ、スポーツなども活発になってきたと。本町の将来を考えたとき、一番の問題は「人口の減少」。人がいてこそ「活気」が生まれます。普段、議員と町民が対等な目線で話し合う機会はありません。どんな突飛なアイデアでもいい。人の意見は批判せず、とにかくいろんな考えを持ち寄る会にしたかったです。ここで話し合ったことで参加者全員が意識を高め、いずれ行動に移してくれるようになったらそれが一番の理想。今後は、地元企業を交えるといったことも考えながら、みんなで町の将来を考え続けたいと思っています。



かわね四季の会 太田起博 会長（高郷）